

(様式第2号)

研究No. (記載不要)	— —
-----------------	-----

平成18年度配分 研究成果発表報告書(実績)

研究名	静岡県西部地域における歴史資料所在データベースの作成				
配分を受けた 特別研究費	特別研究費 350 千円				
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏 名	共同研究者
	文化政策学部	国際文化学科	准教授	西 田 かほる	他 名
発表の方法	1 紀 要 名 称:			号 数	第 号 (頁～ 頁) (年 月発行)
	2 学会等での発表 学会等名:			発表日	平成 年 月 日
	3 その他 発表の方法: 静岡県地域史研究会 6月例会報告			発表日	平成19年6月23日

☐ 学会等での発表及びその他の場合は、学会報等発表を証する資料を添付すること。

☐ 配分を受けた翌年度の3月末までに提出

静岡地域史研究会 6 月例会	070623 於ワークピア磐田
遠江における神社組織の諸相について—甲斐国の神社組織との比較検討— 西田かほる	

はじめに

1. 問題関心の一部—これまでの研究の紹介をかねて

・地域的神社組織の存在

戦国大名武田氏による組織化—勤番制度 【史料 1・2】【図 1】

永禄 3 年(1560)～ 国中 160 社が武田氏神八幡宮へ 2 日 2 夜交代で勤番祈祷をおこなう

←惣社などを中心とする寺社ネットワーク ex.武蔵、陸奥（若狭）

近世期—勤番制度の再興 【史料 3・4】

慶長 10 年(1605)～ 甲斐国四奉行によって勤番が再興

徳川諸陣への祓禊上 5・9 月に八幡宮(城鎮守)において 160 社一同で 3 日間の参籠祈祷【史料 5】

府中八幡宮 宝永・享保—支配頭へ

勤番免除社 10 社(一・二・三宮、惣社、地域大社など)は別段の取り扱い

神職身分の確立を促す—兼帯社の進退、神職血縁集団の成立(階層化) 【表 1】【図 2】【図 3】

cf.化政期武蔵—寺持 54% 村持 35% 神職持 4%

・本所と神社

吉田家

①旧来からの地域的組織を利用

勤番：神職意識の高さ→比較的早い段階での編成(朱印獲得にともなう動き) 【表 2】

②地域的組織の換骨奪胎

府中八幡宮を吉田家触頭に

③除地以上の神社の神職を編成

寛文 5 年(1665)「諸社禰宜神主等法度」 【史料 6】

神道裁許状、官位執奏（神職とタテの繋がり、神職の序列化） 【史料 7】

白川家

①宝暦期以降、諸国の神社編成を開始

②多様な存在を編成(神職以外—宮座、百姓神主、富士山御師 etc.) →吉田家へ波及

職分の保障≠身分の確定

(③復古主義的神職なども編成 吉田家への反発を含む)

・幕府と神社

触頭—触下 甲斐国 触頭：府中八幡宮—触下：勤番 160 社

朱印社 甲斐国国中地域 184 社(うち 50 社—紙書上げ) ←勤番制度を土台に

年頭御礼 幕府による神職の序列化・編成 <靱矢嘉史>

2. 朱印社について

○全国的な朱印下付状況

「当国の神社を概観すれば、第一として、朱印社の多さが特徴に挙げられよう。」<松本久史>

「とくに関東甲信・東海・畿内近国に集中していること、逆に国持大名領の存在する地域では皆無に近いことがわかる。」 【表 11】 <松本和明>

・甲斐国と遠江国は、全国的に見て（駿・遠・豆の中でも【表 8】）朱印寺社数が多い

○甲斐国の場合 【表 3・4・5・6・7】

①天正 11 年—家康の朱印状、慶長 8 年—甲州四奉行の黒印状（376 社・国中神社の 67%）—後の朱印状下付を保証、寛永 19・慶安 1・2 年—將軍朱印状、寛文 5 年(28 社)、貞享以後代々

②勤番制度を前提とした寛永・慶安期の朱印状下付 【史料 8】

—紙書上げの形態・勤番社家による朱印状の申請 【史料 9】

・神職の神社進退意識の高さ(府中八幡宮への対抗意識、吉田家からの許状取得、他宗教者の排除)

○遠江国の場合

慶長 6 年の寺社領の安堵 【表 10】 <佐藤孝之>

①伊奈忠次の寺社領安堵に関する伝達や指示は代官・私領主に及ぶ、遠州全体に関わる支配に関与

②5 石以下の除地は忠次の判断で証文を発給する権限を認められていた（5 石以上は朱印）

10 石未満—174 点中 162 点(93%) 5 石未満—154 点(89%)

朱印状の下付 <松本和明>

③天正 14 年、徳川家康による安堵。天正 18 年の徳川氏の関東転封により豊臣秀吉朱印状による安堵。

慶長 6 年に伊奈黒印状により見積高での安堵。慶長 8 年に家康が朱印状を発給。【表 12・13・14】

—徳川氏の寺社領安堵権の一次喪失、徳川政権下での新規安堵。東海、甲信地域

遠江の朱印社の概要

・伊奈忠次の安堵状—小社は忠次の安堵状をもとに朱印獲得 【表 9・10】 ・朱印社の詳細を確定する必要ありか 【表 18】

甲斐国：安藤—121 西田—184

遠江国：安藤—195 社 『天竜市史』—193 社 村名・神社名・石高などの齟齬

・朱印下付願いの主体は？（誰が、どのように）＝神職の確定（神職ネットワークの存否も含め）

神社の進退が、神主のみでおこなわれている(ように見える)ことの意味は？

3. 遠江における吉田家の神職編成

○これまでの研究

<小野将> 引佐郡 八幡宮山本家史料を中心に分析

①天明 2 年(1782)の幕府による「諸社禰宜神主法度」の再触・寛政 3 年(1791)の吉田家関東役所の創設を契機として、国郡単位の神職の編成が進行

②本所と在地神職との取次として、吉田家は在地神主を「示諭方」「社方取締役」に任じた【表 19】

- ③在地の神職的存在（鑰取・社守など）の実態を取り調べて把握し、吉田家への入門を強制した
- ④寛政9年(1797)には、本所からの免許を受けない、非専門業者が多数存在 【表14】
- ⑤非専門業者を組織化する神職集団の動きは、化政期に進展
- ⑥第2段階の組織化は、安政5～6年 【表15】
- ⑦「百姓身分の専門神主志向」が大きな社会的動向として想定される

<松本久史> 敷智郡 諏訪神社杉浦家の史料を分析

- ①比較的大きな朱印領をもつ専門神主層に国学が普及していた
- ②遠江における吉田家の進出初見は慶長20年(1615)
- ③慶長末年～元和期が吉田家の最初の進出、朱印高の上位の層から吉田家を受容していった
- ④享保・元文期に杉浦国頭を中心に、遠江国の有力主要神職が結集
- ⑤杉浦国頭の交友は遠江一国ではなく、西遠州(一部三河国)が中心。杉浦の個人的資質により交流
- ⑥宝暦期には、ある程度の吉田家による神職の組織化が形成、吉田家に友好的な神職あり
- ⑦天明2年(1782)以降、組織化が進展
- ⑧郡を一つの基本単位として活動し、郡の分割・共同がみられる
- 敷智郡は、長上・引佐・浜名郡と密接に関係
- ⑨社家取締方は、地域分担がなされていた
- ⑩享和～文化期には、吉田家は社家取締方を設定することにより横断的に一国に吉田家の意向を行き渡らせようとした
- ⑪幕末期には、遠江国は関東役所支配であった可能性がある

- ・小野④～⑦ 引佐郡における、朱印社数の少なさに起因するものか。
- ・松本⑤⑧⑨ 郡単位の編成—支配領主との関係は、

○「御広間雑記」からみた遠江国の神職

「御広間雑記」吉田家家政記録 慶安～明治2年(670冊)29冊分のデータ

- ・有力社(者)間の緊密な関係
- 遠州一宮神主鈴木監物—駿河惣社宮内の紹介で吉田家から神道行法を伝授される【史料10】
- 常陸麻生藩主の十八神道伝授を取り次ぐ
- 肥前蓮池藩に宗像社勧請を依頼 橘三喜の師 <幡鎌一弘>

- ・在京の長さ、吉田家への頻繁な出入り
- ・一宮神主クラスは位階依頼・神道伝授が主、下社家・中小社の神職は裁許状を取得

○自治体史からみた近世後期の吉田家と民衆

- ・吉田家による狐下げ祈祷 <橋本政宣>

4. 遠江における白川家の神職編成

<松本久史>

- ①入門者は少なく、朱印高の大きい主要な神社の神職はほとんど入門していない

- ②入門者の初見は、宝永7年(1710)の金原監物
- ③神明宮惣検校の蒲筑後守は従五位下に任官
- ④白川家の本格的な進出時期は、寛政年間
- ⑤代替わりの継目は少ない
- ⑥比較的、西遠江(湖西地域)に入門者が多いのは、三河の影響(入門に際しての申次—竹尾但馬)
- ⑦白川家入門と国学の普及は、直接顕著な相関関係はない
- ⑧朱印高の高い神社は、郡内における触頭の役割を担っている

- ・朱印社、吉田配下の神職の入門が目立つ

おわりに

【参考史料】

- 『甲斐国社記寺記』(山梨県立図書館、1966年)
- 『天竜市史』史料編2(天竜市役所、1975年)
- 国立史料館編『寛文朱印留』(東京大学出版会、1980年)
- 『五社神社・諏訪神社 社殿等修理関係資料』(東京国立博物館、1996年)
- 『白川家門人帳』(清文堂、1972年)

【参考文献】

- 安藤宣保『寺社領私考』(愛知県郷土資料刊行会、1977年)
- 土岐昌訓『神社史の研究』(桜風社、1991年)
- 佐藤孝之「近世初期の遠州支配と中泉代官」(『近世前期の幕領支配と村落』巖南堂書店、1993年)
- 西田かほる「甲州国中における社家とその組織の成立」(『武田氏研究』12、1994年)
- 西田かほる「勤番体制と社家集団」(『学習院大学史料館紀要』8、1995年)
- 小野将「幕末期の在地神職集団と「草莽隊」運動」(久留島浩・吉田伸之編『近世の社会集団』山川出版社、1995年)
- 橋本政宣「憑霊信仰と吉田神道の祈祷」(『朱』41、1998年)
- 西田かほる「甲斐国国中地域の神社朱印状について」(『山梨県史のしおり』1998年)
- 澤博勝『近世の宗教組織と地域社会』(吉川弘文館、1999年)
- 『中世諸国一宮制の基礎的研究』(岩田書院、2000年)
- 松本久史『荷田春満の国学と神道史』(弘文堂、2005年)
- 靱矢嘉史「近世神主と幕府権威」(『歴史学研究』803、2005年)
- 「吉田神道家「御広間雑記」の記載項目のデータベース化と神道記録の研究」(研究代表者幡鎌一弘『平成15～17年度科学研究費補助金基盤研究(C)研究成果報告書』2006年)
- 松本和明「近世朱印寺社領の成立について—慶安元・二年の新規安堵を中心に—」(『論集きんせい』29、2007年6月)

史料1

一、棟別役之普請、悉皆免許之事、
一、年中之祭礼、不可怠慢、宮中之掃地、小破之所随分量可加修理之事、
一、除武田・大石和・窪三ヶ所之八幡・一二三宮・東郡之熊野・市川之御崎・林部之宮・三輪、而国中之大小社之祈宜等、兩人宛令詰番、於當宮可動之事、
付、毎月之參籠免許之事、
一、右之十ヶ所之祈宜、社頭參籠安泰之祈禱、不可有疎略之事、
一、於當宮勤番之社家中、有懈怠之人、普請役不可免許之事、
右具在前、
永禄三庚申八月廿五日
大小之社人衆

「国中之大小之祈宜」は条目第三条において、武田八幡宮以下の一〇社を除き、府中八幡宮において交代で勤番祈禱をすること定められたのである。
翌永禄四（一五六二）年、信玄は同じく府中八幡宮に対し禁制を下す。

史料2

- 当社八幡宮禁制之事
一、初夜後夜之神楽怠慢之事、
一、不着烏帽子水干之事、
（四ヶ条中略）
一、禁忌之廟、不渡次番衆而、令懈怠之事、
一、当病之人不理所之印判衆而、番無沙汰之事、
番帳次第不同
一番 山梨之祈宜
四阿之祈宜
川田之祈宜
加茂之祈宜
（三）八十番中略
八十一番 八日市はの祈宜
八十二番 坂かきの祈宜
坂よりの祈宜
右二日一夜堅可勤者也、
永禄四年酉辛閏三月吉日

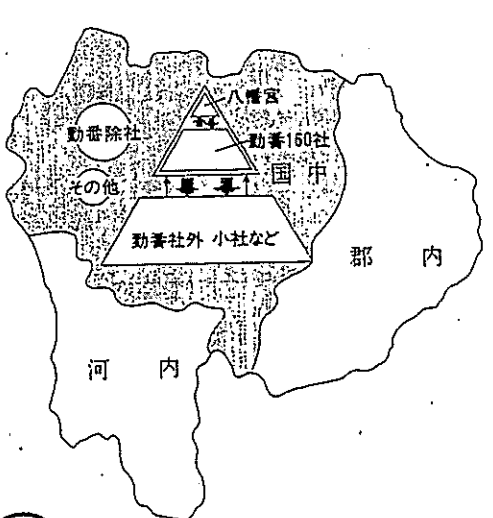


図3 国中神社組織模式図

史料1~4 甲斐国志
史料5 甲斐国社記奇聞
図1~3 同 1994、1995、1996年
表1

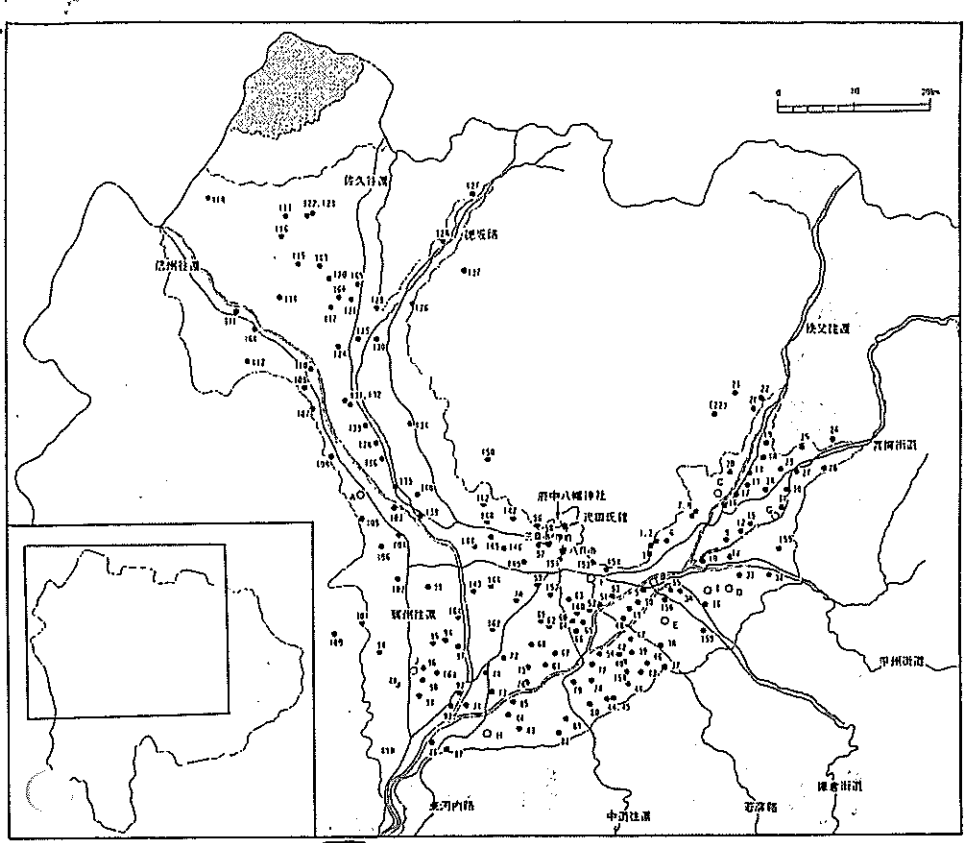


図1 勤番制度関係諸社分布図

史料3

一、役役悉皆免許之事、
一、年中之祭礼、不可怠慢、宮中之掃地小破之所、随分量可加修理之事、
一、除武田・大石和・窪三ヶ所之八幡・一二三宮・東郡之熊野・市川之御崎・林部之宮・三輪、而国中之大小社之祈宜等、兩人宛令詰番、於當宮可動之事、
付、毎月之參籠免許之事、
一、右之十ヶ所之祈宜、社頭參籠安泰之祈禱、不可有疎略之事、
一、於當宮勤番之社家中、有懈怠之人、普請役不可免許之事、
右具在前、
慶長拾己
霜月三日

榎井安芸守 信忠（花押）
石原四郎右衛門尉 昌明（花押）
小田切大隅守 茂富（花押）
跡部九郎右衛門尉 昌忠（花押）

史料4

当社八幡宮禁制之事
一、初夜後夜之神楽怠慢之事、
（六条略）
一、当病之人、不理印判衆、番無沙汰之事、
番帳次第不同
一番 山梨之祈宜
四阿之祈宜
（一）七九番略
八十番 坂垣之祈宜
坂寄之祈宜
以上、
右二日一夜堅可被相勤、為番衆之役、毎朝宮中庭共可被致掃除、或病或召使之者、為代被勤御番候者、自神主改之、可被申付、若於用捨、神主共可為曲事者也、仍如件、
慶長十三戌申 卯月五日
榎井安芸守 信忠（花押）
小田切大隅守 茂富（花押）

史料5

定
一諸社之祈宜神主等、専学神祇道、所其崇敬之神体亦可存知之、有来ル神事祭礼可勤之、向後於令怠慢者、可取放神職事
一社家位階、從前々以伝 奏昇進輩者、弥可為其通事
一無位之社人、可着白張、其外之装束者、以吉田許状可着之事
一社領一切不可賣買事
付、不可入質物事
一神社小破之時、随其相応常々可加修理之事
附、神社無怠慢掃除可申付事、
右條々可堅守之、若違犯之輩於有之者、随而科之輕重可沙汰者也、
寛文五年七月十一日

史料6

①甲斐国山梨郡栗原筋上・中萩原・上小田原兩村産神正一位岩間大明神・下萩原村正一位白山大権現・下小田原村正一位山王太権現、三社之祠官文殊川伊予守藤寛、着風折烏帽子紗狩衣、任先例可神役者 神道裁許之状如件
享保二十年二月十八日
神祇管領長上從三位行侍從卜部朝臣兼雄（印）
（甲州市文殊川家文書 展示2）
②紗狩衣之事、裁許藤原文喬訖、向後可着之状如件、
正徳六年後二月十三日
神祇管領
（甲州市文殊川家文書 319）

一、慶長五年関ヶ原御陣之節私先祖今沢山城御供仕度旨平岩主計頭殿江奉願上御聞濟之上八月御祈禱被仰付九月朔日支配下百六拾社神主八幡宮江参籠屋夜抽丹誠御祈禱三日満願ニハ太々神樂舞行仕山城神主共召連御陣中江御被持参奉獻上候処御目見被仰付御満悦被為思召難有奉蒙上意其上一方之御用相勤候ニ付御紋附之御白旗一流御神納被遊候且当座為御祝儀御米被下置候
一、元和元年卯四月大坂御陣之節も御吉例御祈禱被仰付五月朔日御祈禱仕三日満座ニハ太々神樂謹行右御被御陣中江奉獻上候処御陣治り八幡宮依神力被為得御勝利御満足被為思召御紋附之御白旗一流猶又御神納被遊候

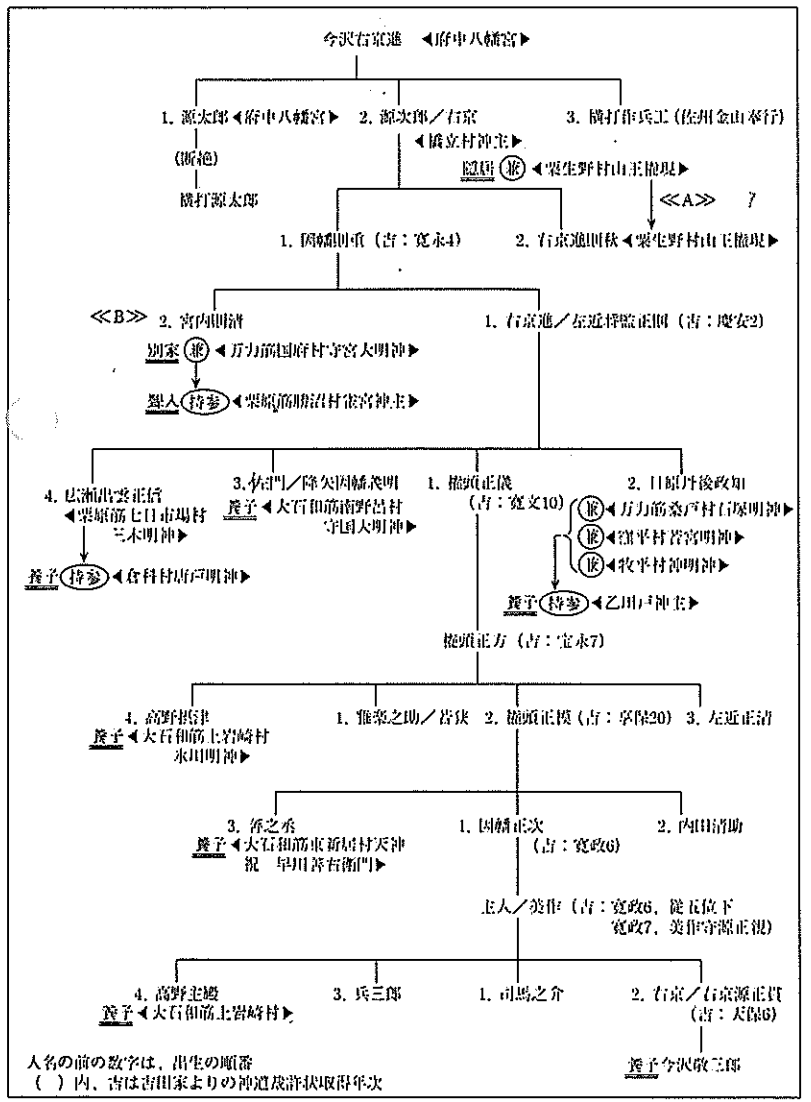


図2 甲斐奈神社 神主系図

『甲斐国社記奇聞』より作成

表1 国中神社の支配状況

村持・寺持	社	人	勤番除社家	その他	勤番社家分家
65[10%]	156人	27[17%]	129[83%]	9	9
神主持	578[90%]	27	129	9	9
全体	643				

（註）『甲斐国志』より作成（註6）③論文より転載、一部加筆。

（表1）

大猷院様 朱印
飯田伊予 源正次頂戴
甲斐国山梨郡板垣村諏訪明神社領同村之内巻石六斗餘熊野権現社領同郡東光寺村之内七斗餘白井河原村之内式石八斗餘都合五式式斗余事任慶安二年十一月十七日先判之旨寄附之訖全可收納并社中竹木諸役等免除如有来永可有相違者也
貞享二年六月十一日

（表2）

寛永年中国中百六拾社配下之社家江御朱印頂戴仕候様願上候節之御証文享
御状令拝見候如仰其後へ久々不申通候其元御無事之由珍重存候此度社家江御朱印被下候付而貴殿下之分へ貴殿が改無之へ拝領申事不罷成候由右京被申渡候段御満足之旨令得其意候御状之趣弥可申聞候猶重而可申述候間不能詳候恐々謹言
六月七日 下河辺甚右衛門 重龍 書判
今沢山城守様

一筆致啓上候然へ甲府八幡之神支配之宮其外八幡宮御朱印頂戴申度由ニ而神主其御地江参上申候間村中倉儀仕私証文進上申候番之宮之儀ニハ社領少分ニ御座候得共毎日之番等相動申儀候間此度御朱印頂戴被申候様成可下候委細へ八幡之神主可被申上候恐惶謹言
六月廿一日 平岡勘三郎 良辰 書判
安藤右京進様
松平出雲守様

一筆致啓上候然へ甲府八幡番之宮神主御朱印頂戴仕度由ニ而其御地江相詰申由ニ御座候先日申上候通小社之儀ニハ御座候得共八幡宮ニ而番等相動其上御祈禱不怠仕社人之儀ニ御座候間番之宮之分ハ此度罷成儀ニ御座候へ、八幡之神主御訴訟被申上候通御朱印頂戴仕候様ニ被成可被下候恐惶謹言
十月十九日 平岡勘三郎 良辰 書判
安藤右京進様
松平出雲守様

（表3）

年号	数	地域大社名
慶長	1	
元和	1	
寛永	21(*1)	武田八幡宮
正保	2	
慶安	1	
寛文	5(*2)	二宮、三宮
延宝	1	
元禄	1	
享保	4(*2)	府中八幡宮、窪八幡宮
寛政	*1	熊野権現
天明～文化	*1	御崎明神

・『甲斐国社記寺記』『峡中家歴鑑』などより作成
・*印は地域大社の数

（表13）相模国における寺社朱印状発給状況

朱印状発給年変遷	寺社数
天正19→元和3→寛永13	92
慶長3→元和3→寛永13	1
慶長4→元和3→寛永13	1
天正19→元和3→寛永18	1
天正19→元和3→慶安元	1
天正19→寛永19	2
天正19→慶安元	13
天正19→慶安2	16
寛永19	1
慶安元	2
慶安2	3

註1)『寛文朱印留』をもとに作成。

（表14）甲斐国における寺社朱印状発給状況

朱印状発給年変遷	寺社数
天正期→元和2→寛永13	1
天正期→寛永19	54
天正期→慶安元	12
天正期→慶安2	7
正保3	1
正保4	1
寛文5	

註1)天正期のほぼすべては天正11年である。
註2)『寛文朱印留』をもとに作成。

（表10）伊奈忠次発給寺社領証文の郡別・年代別点数

年代	郡名	榛原	城東	佐野	山名	周智	磐田	益田	長上	鹿王	敷知	浜名	引佐	計
慶長 5. 12. 18								1						1
◇ 6. 1. 23～25						1	1		4			6		12
◇ 6. 2. 4～11								2				2		4
◇ 6. 2. 14	1		10	13	5		28	7	1	35		3		103
◇ 6. 2. 15	2				1	2		1	1		2			9
◇ 6. 2. 18						1								1
◇ 6. 6～7.								2						2
◇ 6. 8. 24					4	8		4						16
◇ 6. 9. 7						1								1
◇ 6.					1									1
◇ 7. 4. 18・20								1	1					2
◇ 8. 2. 21					1									1
◇ 9. 6～8.	11				5			3					2	21
計	14		10	25	18	1	42	13	1	45		5		174

註 拙稿「遠州における伊奈忠次文書について一新出文書の紹介を中心に」(『静岡県史研究』第6号、1990年)、小本香「新出伊奈忠次文書について」(『地方史研究』第19号、1991年)、『磐田市史』史料編2(近世)による。

（表9）

遠江の朱印社について

引佐	10
磐田	2
佐野	6
敷智	47
城東	7
周知	16
豊田	63
長上	18
榛原	8
浜名	3
山名	15
	195

慶長7	1
慶長8	14
慶長15	1
寛永13	1
寛永19	1
慶安1	5
	23

（表4）新知朱印下付年代別神社数

年代	神社数	備考
天正	30	内、2社は近世黒印社
寛永	26	
慶安	146	内、50社は一紙内書上
不明	12	内、2社は一紙内書上
計	184	天正を除く

【甲斐国志】「甲斐国社記・寺記」より作成

（表5）朱・黒印社石高

	神社数	総石高	平均石高
除社(朱印)	11	906	82.4
朱印社	173	752.6	4.3
黒印社	186	307.5	1.6

石高は「斗」未満切り捨て。
【甲斐国志】より作成

（表6）甲斐国地域別朱・黒印社数

	国中	河内	郡内
朱印社数	184	(1)	—
黒印社数	*186	—	2
全体数	643	142	483

【甲斐国志】より作成

（表3）近世甲斐国国中地域の朱黒印社数

	除社	勤番社	勤番外	計
朱印社	11	96	77	184
黒印社	—	54	132	186
除地	—	16	257	273
計	11	166	466	643

1 勤番外の除地の内、6社は慶長度の黒印状を所持する。
2 勤番社の対象は変動分もすべて含む。
3 除社とは、勤番免除の10社と府中八幡宮の11社。
【甲斐国志】より作成

（表7）勤番社外朱印社内訳

	社数
勤番社一紙内	46
勤番兼帯社	6
寺・修験支配	10
除社関係	4
その他*	11
計	77

*うち4神職(6社)は勤番扱い。
【甲斐国志】より作成

表2～9. 西田1998年、13か

表10 佐藤論文
表11～14 松本知明論文

地域	国名	朱印寺社数	合計高(石)	黒印寺社数
東北	岩手	—	—	4
	陸奥	63	2094	陸奥128
				陸中177
				陸前158
	出羽	121	15238	磐城・岩代52
				羽後89
				羽前86
関東	常陸	360	8661	10
	上野	227	6387	3
	下野	208	18168	33
	上総	101	1733	
	下総	261	4891	23
	安房	82	2250	
	武蔵	878	45983	12
	相模	310	3382	—
東海・甲信	甲斐	238	3671	565
	信濃	100	5476	66
	伊豆	20	1067	45
	駿河	155	9552	
	遠江	591	9855	
	三河	250	9984	232
	尾張	7	2803	
	伊勢	19	9107	50
	伊賀	—	—	—
	志摩	—	—	—
	飛騨	—	—	—
北陸	美濃	21	1069	47
	越後	29	3085	—
	佐渡	1	90	—
	越中	—	—	67
	能登	—	—	—
	加賀	—	—	—
	越前	3	524	41
	若狹	1	300	—
畿内・近国	紀伊	1	21300	246
	近江	52	15177	13
	山城	214	41279	7
	大和	59	34732	1
	摂津	14	4222	18
	河内	12	1098	
	和泉	21	916	
	播磨	91	4431	38
	丹波	5	109	
	丹後	—	—	
	但馬	3	78	
中国	備前	1	186	183
	備中	1	160	47
	美作	1	50	5
	因幡	—	—	—
	伯耆	1	3000	30
	備後	—	—	—
	安芸	—	—	24
	出雲	—	—	104
	石見	2	360	10
	周防	—	—	39
	長門	—	—	—
四国	淡路	—	—	—
	阿波	—	—	64
	讃岐	3	830	83
	伊予	—	—	27
	土佐	—	—	105
九州	豊前	1	1000	31
	豊後	1	30	31
	筑前	—	—	54
	筑後	—	—	27
	豊岐	—	—	140
	対馬	—	—	—
	肥前	9	285	—
	肥後	—	—	69
	日向	—	—	59
	薩摩	—	—	149
	大隅	—	—	—

註)『旧高旧領取調帳』、安藤宣保「寺社領私考」をもとに作成。

（表12）初発朱印状集中発給時期

国	集中発給年	発給数
1 上野・下野・上総・下総・武蔵・相模	天正19(1591)	411/526
2 甲斐	天正11(1583)	65/78
3 駿河・遠江	慶長7(1602)・8(1603)	113/160
4 三河	天正9(1581)	24/123
	慶長7(1602)・8(1603)	75/123
5 常陸	慶長7(1602)	24/36
6 山城	元和元(1615)	128/207
7 山城以外の畿内近国	元和3(1617)・元和5(1619)	68/130
8 全国	寛永13(1636)	—
9 関東など	寛永19(1642)	—
10 全国	慶安元(1648)・2(1649)	—

註1) 発給数欄は、分母が慶安期安堵を除く全体数、分子が集中発給年安堵数を示す。
註2)『寛文朱印留』をもとに作成。

(史料 3・12)

廿二日、辛未、微雨、遠州一宮之神主鈴木監物

参入、今度位階之望ニ付相登申由也、就其公

(高) 家之御衆従大沢兵部少輔殿御状被添持

参也、其書状云、今度遠州一宮之神主鈴木監

物位階望申ニ付内々申入、御執 奏之事御頼

被成候由也、当春於江戸両伝御衆へも被仰達

候由、此度寺社御奉行衆へも御尋候得ハ、御

条目之外別子細無御座候、御当家次第と被仰

之由、偏ニ御頼被成候義云々、委細彼御状有

之也、從惣社宮内より家老中へ書状到来、今

度遠州一宮之鈴木監物罷登申候、宗源行法多

年望申由、御免許被成候様ニ被仰上可被下由

也、其外神道之義承度由可然様ニ奉頼由也并

新庄隠岐守殿十八神道御望候由申来、則隠岐

守殿より書付到来也、新庄隠岐守従五位下藤

原直時判、別紙有之也、

(寛文6年6月22日：0016_0093)

表 15 寛政9年「潜帳」にみえる遠江国内の神職的存在

引佐郡 北岡村塔土大明神		鑑取・村役	五郎左衛門
田畑村六所大明神	無跡村持	庄屋	藤左衛門
揚久保村六所大明神	無跡村持	庄屋	利右衛門
白岩村六所大明神	無跡村持	庄屋	八右衛門
西黒田村熊野三社権現		鑑取	八郎右衛門
東黒田村六所大明神		鑑取	〔宮田〕常右衛門
四方丈村熊野権現	村支配	庄屋	久右衛門
別所村六所大明神		社守	〔山田〕太郎左衛門
梅ヶ平村白鳥大明神	村支配		徳兵衛
渡川村六所大明神		鑑取	勘左衛門
的場村六所大明神	村支配	庄屋	庄右衛門
花平村若宮大明神・山王権現	無跡村持	鑑預り	平右衛門・善兵衛
		庄屋	与右衛門
鷺沢村六所大明神		鑑取・庄屋	佐左衛門
瀧澤村四所大明神		鑑取	〔源美〕五太夫
谷澤村六所大明神		鑑取	与市右〔左?〕衛門
持宿村六所大明神		鑑取	治郎左衛門
横尾村西宮		社守	藤右衛門
柴宮		社守	文右衛門
水神		神主	徳右衛門
八王子		鑑取	六郎右衛門
神宮寺村山神		社守	弥右衛門
若宮大明神		社守	勘藏
金山大権現		社守	平左衛門
兎荷村六所大明神		鑑取	助右衛門
田沢村六所大明神		社守	仙右衛門
伊平村六所大明神	無跡村持	鑑取	五郎兵衛
神宮寺村		村役	与右衛門・市右衛門
井伊谷村		村役	与五兵衛
龜玉郡 灰木村六所大明神		支配人	七右衛門
堀谷村六所大明神		支配人	弥三郎
宮口村六所大明神		鑑取	甚太夫
新原村諏訪大明神社		支配人	六左衛門
大平村六所大明神社	村支配	庄屋	伊右衛門
長上郡 木舟村			多右衛門

(出典) 「神方取締之記」(pp.25～28)。

表 16 吉田家遠江国執奏社家(文化4年)

社 頭 名	備考〔報国隊との関係など〕
周智郡宮代村一宮	小国家、覺之助
浜松諏訪大明神	杉浦家、大学
浜松五社大明神	森家、縫殿助・信濃守
豊田郡中泉八幡宮	秋鹿家、内匠・政朝・朝次
長上郡神立村蒲神明社	蒲家、白川家門人帳首巻に「筑後守偕忠」の記載あり*、惣検校
佐野郡日坂八幡宮	初比奈内藏進
豊田郡白羽村白羽神明社	
山名郡鎌田(澤)神明宮	笈田筑後・安西斎宮・土佐
長上郡参野村四十六社	桑原家、真清
磐田郡見附惣社	大久保家、縫之助
見附天神	
山名郡木原村熊野権現	
周智郡天宮村天宮明神	
周智郡山住村熊野権現	
豊田郡大明神村松尾大明神	
山名郡八幡村八幡宮	安井出雲・山城
城岡郡佐倉村池宮	
城岡郡平尾村八幡社	
城岡郡賀茂村大頭龍権現	
「白旗白旗」	
山名郡梅田村八幡宮	浅羽帯刀
城岡郡門屋村高松権現	
榛原郡白羽村白羽大明神	
長上郡萬斛村牛頭天王	鈴木家、主水
「神妻鹿嶋」(豊田郡)	

(出典) 「神祇管領吉田家諸國社家執奏記」(文化4＝1807年板本)。「神道大系論説編九 ト部神道(下)」所収、p.463。

(凡例) 社名が比定できないものは原史料の表記のままカッコに入れて掲げた。右備考欄内の人名は幕末期における当該社家出身の報国隊員名を指す。

* 近藤喜博編「白川家門人帳」(研文堂出版、1972年)、p.38。

表 17 許状を受け組織化された神職一覧

	厨書	社 頭 名	姓名	備 考
1858.4.18	神 主	祝田村羽島大明神	萩原山城栄	鑑目・風折烏帽子・狩衣許状。のち報国隊員。
1858.6.3	鍵 取	五日市場村若宮八幡宮	加藤七郎左衛門	文久3年時点で庄屋勤役。
	鍵 取	兎荷村六所大明神	沢口次太夫	
	鍵 取	奥山村富幕六所大明神	牧野佐次右衛門	もと「組頭役かけ預り」。
	社 守	同村小斎藤山神社	松井市郎左衛門	
	鍵 取	滝沢村四所大明神	遅美五太夫	
	鍵 取	白岩村六所大明神	田力武右衛門	もと村方老人廻り番。
	鍵 取	梅ヶ平村白鳥大明神	鈴木万右衛門	もと村支配。
	鍵 預	四方淨村熊野権現	木下久右衛門	仮役。鍵取家絶家、相続できないため願い出る。
	鍵 取	石岡村八幡宮	山瀬嘉七	村役人廻役年番。
	社 守	神宮寺村山神	山下源太郎	
	鍵 取	廣岡村神明宮	鶴岡九郎右衛門	
	鍵 取	氣賀村吳石諏訪大明神	松井藤太夫	
	鍵 取	同社	竹田五太夫	
	鍵 取	氣賀村吳石若宮大権現	手塚藤八	
	鍵 取	氣賀村小森弁才天	伊藤伝左衛門	
	鍵 取	氣賀油田村水神	斉藤七郎右衛門	
	鍵 取	氣賀老ヶ谷村山神	達藤左吉	村持社。
10.6	神 主	神 主	都田村天神	袴田次郎左衛門詳明
	社 守	豊都稲荷大明神	村松嘉兵衛良金	
	社 守	立岩権現	金原孫四郎貞伸	
	社 守	白巖大明神	鈴木佐太夫利安	
	社 守	水神	坪井利右衛門秀平	
	社 守	雷大明神	須部喜太夫義邦	
	社 守	天神	村松権兵衛繁秋	
	社 守	力神	村松新右衛門真貞	
	下社家	神明宮	宮司金左衛門吉年	
	下社家	毘沙天	斉藤伝右衛門義門	
	鍵 取	背山村鎮守	鈴木松右衛門	組頭役「かけ預り」。もと村方廻り頼宜。
	鍵 取	三嶽村六社大明神	内山四郎左衛門	もと村方廻り役。
1859.4.2	鍵 取	鍵 取	鷺沢村六所大明神	袴田定吉寛林
	鍵 取	田沢村六所大明神	夏目仙右衛門	
	鍵 取	井伊谷村天神	西尾清太夫	
	鍵 取	井伊谷村御池大明神	大谷米蔵	
	鍵 取	奥山村六所大明神	杉山庄次郎	
	鍵 取	奥山村田草大明神	奥山源太郎朝福	もと鍵取廻り番。
	鍵 取	持宿村牛頭天王	岩田長兵衛	万延2年正月、淨衣免許を出願。のち報国隊員。
	鍵 取	持宿村六所大明神	夏目嘉平	のち報国隊員。
	鍵 取	氣賀下村熊野三社権現	豊田左京為政	
	社 家	氣賀油田村水神社	竹田弥治右衛門	
	社 家	同上	尾藤彦四郎	
	鍵預り	伊平村六所大明神	野末平七	仮役。鍵取家同門。
	鍵 取	井伊谷東牧村塔土大明神	鈴木舎人利秀	風折烏帽子・淨衣許状。
	鍵 取	奥山新田背山村白山権現・牛頭天王	中村左門依信	同上。
	鍵 取	持宿村六社大明神	兼野治郎左衛門敦高	同上。文久4年時点で庄屋。のち報国隊員。

(出典) 「引佐町史料12 山本金木日記」(1990)。

表 15～17 小野喜久文

史料10 中根金蔵喜久文

「寺社御朱印記」(宝暦)/内閣「御朱印寺社領」				『天竜市史』/193社		寛文朱印留(初下付年)		取 締	保 障	止 留	宝暦10年吉田嫡男元服/納金	寛政9年吉田家取締廻 村関係	寛政期吉田家助成金
1	72	9.3	接原	上小杉[上小松]	八幡	池谷伝右衛門	池谷伝右衛門						
2	71	9.6	接原	川尻	八幡	松村式部	村松式部						
3	76	4.8	接原	相良庄[菅谷]	一万社	藤波富内	藤波富内						
4	75	6.3	接原	相良庄[地頭方]	駒方明神[駒形]	増田弥右衛門	増田孫左衛門						
5	73	9	接原	相良庄[海老]	八幡	中村市郎右衛門	中村市郎右衛門						
6	69	105	接原	白羽	白羽明神	滝中務	慶長8.9.19		○	○			
7	70	20.5	接原	藤岡[藤守]	八幡	太田良与右衛門	太田良与右衛門						
8	74	7.5	接原	吉永	八幡[熊野八幡]	鈴木五郎太夫	鈴木五郎太夫						
1	64	20	城東	大淵	三社権現	戸塚右門	戸塚左門						
2	63	30	城東	門屋	高松	中村将監	中山将監		○				
3	66	6	城東	上方[土方]	高天神	大石源三郎	大石孫三郎						
4	68	5	城東	比木[柴]	加賀[加茂]	宮本掃部	宮本掃部						
5	67	5	城東	横須賀	王子権現	戸塚忠太夫	戸塚忠太夫						
6	65	8	城東	横地	天神[藤谷明神]	二俣藤太夫	二俣藤太夫						
7	62	30	城東	(平尾)[内田]	八幡	栗田主膳	栗田主膳		○	○			
8		[10]	城東	佐倉	池宮	水野右近			○				
1	98	75	佐野	上垂井[桑木]	天王	上村刑部	慶安1.2.24			○			
2	105	100	佐野	新坂[目坂]	八幡	与田采女	寛永19.6.18			○			
3	99	15	佐野	手野[平野]	八王子[熊野]	篠野四郎右衛門	篠野四郎左衛門						
4	100	3	佐野	富部	八王子	高木三郎助右衛門	高木三郎左衛門						
5	194	10	佐野	西開[下西郷]	[天王]	竜尾伊織	内閣						
6	195	9.3	佐野[豊田]	西開[川袋]	[天王]	長谷川伊右衛門	内閣						
1	108	72.9	磐田	見付	惣社[惣社祇園]	西尾内記	慶安1.2.24		○				
2	101	50	磐田	見付	天神	斎藤主馬	慶長8.9.19		○	○			
1	寛 449	35	山名	浅羽	八幡宮		慶長8.9.25						
2		[30]	山名	八幡	八幡				○				
3	120	18[16.5]	山名	入斗郷[不入斗]	富士[富士浅間]	久野内記	久野内記						
4	110	70	山名	井原[木原]	熊野	鈴木富内	慶長7.9.29				木原郷		
5	106	100	山名	鎌田郷	神名	梶田筑後	寛永13.11.9				御厨氏鎌田	○	○
6	141	5	山名	北川[北川原]	八幡[宇佐八幡]	足立勘左衛門	足立勘右衛門						
7	94	6	山名	畠名[畠名]	熊野	松下兵右衛門							
8	93	7	山名	久津部	八幡	安達一学	安達一学						
9	109	70	山名	桜田	八幡	浅羽出雲	浅羽出雲、浅羽外記	慶長8.9.11			梅田村	○	○
10	117	25[33]	山名	三ノ宮[二ノ宮]	高根権現	名倉次郎右衛門	名倉次郎左衛門						
11	95	4	山名	高部	六所	寺野七郎右衛門	寺野七郎右衛門						
12	91	16	山名	新見[新見]	八幡	永田三郎次郎	永田三郎四郎						
13	146	4.8[4.5]	山名	西島	天王	元輪次郎太夫	元輪治郎太夫			○			
14	193	15	山名	馬場	明神[八幡]	伊藤庄兵衛	伊藤庄兵衛						
15	92	7	山名	久津部	寛茂[加茂]	三浦利兵衛	三浦利兵衛						
16	112	35	山名[教習]	万解[万解]	天王	山下八右衛門	鈴木主水	慶長8.9.19			長上郡	○	
17	129	5.5[5]	山名	門井[川井]	十二社	木野理兵衛	木野利兵衛						
1	79	20.3	周知	飯田郷	天王	村松求馬							
2	122	7	周知	市場	春日	河内左門							
3	77	590	周知	一宮	一ノ宮	鈴木弾正	鈴木弾正	慶長8.8.28		○	○	○	
4	160	3[3.5]	周知	宇引[宇引一色]	八幡[若宮八幡]	富永外記	富永外記						
5	192	20[12]	周知	宇引中	明神[山王]	村松左京	内閣						
6	137	5	周知	大方[天方大鳥 居]	八幡	小沢左次右衛門	小沢佐治右衛門						
7	142	5	周知	天方	白山権現	天方國書	天方國書						
8	111	50	周知	天宮[天ノ宮]	天神[天宮]	中村右京	慶安1.2.24		○				
9	119	20[18]	周知	上山製郷	天王	幡鎌主水							
10	121	16[5]	周知	菅ノ谷郷	三島	同人	久野内記(山名郡不 入斗)						
11	126	6	周知	別所	山王	日吉伝蔵	日吉伝蔵						
12	80	17.5	周知	松月[相月]	諏訪	安達縫殿之助	安達縫殿之助						
13	81	10	周知	明家[領家]	諏訪	山住織部	山住織部						
14	78	37.5	周知	山住	熊野[クマノ権現]	山住大膳	山住大膳		○				
15	155	3.7	周知	吉崎[谷崎]	天神	北島伊織	北島伊織						
16	82	6	周知	[鶴松]	加茂	永田伊右衛門	永田伊左衛門						
1	8	18.5[12.5]	豊田	青谷	神明	市川伊太夫	市川伊太夫						
2	123	6.8	豊田	伊吹賀[伊砂]	諏訪	一河源蔵	市川源蔵						
3	13	9.7[9.5]	豊田	浦川	熊野	三輪右京	三輪左京						
4	20	5	豊田	江口	八幡	大石半太夫	大石半太夫						
5	175	2	豊田[教習]	大久保	神明	土屋次郎左衛門	土屋治郎右衛門						土屋次郎左衛門
6	176	2	豊田	大久保	天王	鈴木藤右衛門	国会						
7	25	2.4	豊田	大谷	三島明神	太田数馬	太田数馬						
8	12	9.7	豊田	大峯	八幡	宮沢藤太夫	宮沢藤太夫						
9	3	27.5	豊田	神楽[神楽]	鹿島[鹿島明神]	三輪若狭	三輪若狭						
10	118	23[20]	豊田	鹿島郷	鹿島[権河島]	大隅孫之丞	大隅孫之丞						
11	15	7.9	豊田	金沢[金洗]	熊野	鈴木竹右衛門	鈴木竹太夫						
12	177	2	豊田	上岡田[岡田]	神明[春日]	大津勘兵衛	大津勘兵衛						
13	149	4.5	豊田	下岡田郷	天王	鈴木藤太夫	鈴木藤太夫						
14	143	5	豊田	上川金[川金]	八王子	久野次郎左衛門	久野治郎左衛門						
15	22	5	豊田	上本郷	神明	帯金福宜太夫	帯金福宜太夫		○				
16	167	3	豊田	上万能郷	諏訪	平野理兵衛	平野利兵衛						
17	14	8.5	豊田	加茂[明神・天 神]	天神	金子九郎左衛門	金子九郎左分、梅村 平左衛分						
18	145	4.8	豊田	川名[内名]	八幡	稲垣久兵衛	稲垣久兵衛、稲垣助 右衛門						
19	128	5.8	豊田	田原[内名]	高根権現	鈴木勘兵衛	鈴木勘兵衛						
20	133	5	豊田	桓武	六所	田辺権太夫	国会						
21	7	14[14.3]	豊田	豊平	八幡	内藤平兵衛	内藤平兵衛						
22	116	25	豊田	小島郷	六所	坪内平兵衛	堀内平兵衛		○				
23	170	3	豊田	米倉	八幡	山本勘負	山本勘負人						
24	17	6.5[6.9]	豊田	敷地	神明	大塚安兵衛	大塚安兵衛						
25	5	15[10]	豊田	敷地郷	山王	伊藤玄壽	伊藤玄壽		○				
26	179	8	豊田	篠原	山王	永田数馬	内閣						
27	183	10[余]	豊田	柴本	[於呂明神]	中村孫太夫	内閣						
28	23	4.5	豊田	白坂[勾坂]	神明[岩田明神]	青島御右衛門	青島右衛門						
29	148	4.5	豊田	向坂[勾坂]	稲荷[天王]	青島四郎兵衛	青島四郎兵衛						
30	113	32	豊田	白羽郷	白羽明神	鈴木主水	山下八右衛門						
31	139	5	豊田[城東]	新野	上水神[水野]	川原島太郎	河原崎太郎兵衛						
32	11	10	豊田	瀬尾[瀬尾]	白山	山崎刑部	山崎刑部						
33	159	3[3.5]	豊田	竹内[竹ノ内]	八幡[飯布明神]	林田吉右衛門	村田吉左衛門						
34	138	5	豊田	田島[白島]	六所	笹田次郎右衛門	笹田治郎左衛門						
35	180	8	豊田	塚[掛塚]	貴船	関内記	関内記						
36	127	6	豊田	富田	子安明神	伊井田喜内	伊井田喜内						
37	1	250	豊田	中泉	[中泉八幡宮]	秋鹿内匠	秋鹿内匠	慶長8.8.20			八幡宮	○	○
38	19	5	豊田	中郡	諏訪	太田頼母	太田頼母						
39	9	11[11.7]	豊田	中島	若宮八幡	鷹野右衛門	鷹野佐兵衛						
40	132	5[余]	豊田	長島	天王[牛頭天王]	市川又左衛門	市川五左衛門						
41	157	3[3.5]	豊田	中野戸[中ノ戸]	十九社	鈴木半太夫	鈴木半太夫						
42	18	5.7	豊田	中野町[中ノ町]	六所	村越与左衛門	村越与左衛門						
43	178	7.8	豊田	西郷	白山	堀田甚兵衛	堀之内甚五兵衛						
44	135	5	豊田	日明	諏訪	鈴木清七郎	鈴木清七郎						
45	131	5.1	豊田	羽島	八幡	清水次太夫	清水次太夫						
46	21	5	豊田	瀧場[菅場]	八王子	小池又右衛門	小池又右衛門						
47	140	5	豊田[城東]	比奈[朝比奈]	下水神[宇佐八幡]	鈴木九兵衛	鈴木九兵衛						
48	172	3[2]	豊田	平松	八幡	牧野藤左衛門	牧野藤左衛門						
49	16	7.3	豊田	吹上	水神	両角孫次郎	両角彦三郎						
50	10	10	豊田	吹上	八幡	両角彦三郎	両角彦三郎						
51	181	8.6	豊田	舟明	諏訪	濃美四方助	内閣						
52	125	6.4	豊田	舟田[船明]	八幡	川島甚太夫	川島甚太夫						
53	6	15	豊田	前野郷	東八王寺[八王子]	鈴木利右衛門	鈴木利右衛門						
54	2	35	豊田	松尾	松尾明神	守屋十兵衛	守屋十兵衛	慶長8.9.19		○		守屋丹波	
55	114	30	豊田	松尾	八王子	鈴木太郎左衛門							
56		38	豊田		八王子、神明、諏 訪、松尾村天神、高 根、豊沙門		鈴木太郎左衛門						
57	166	3	豊田	向笠	熊野	寺田織部	寺田織部						
58	169	3	豊田	向笠	六所	山崎又三郎	山路五郎左衛門						
59	182	10	豊田	横山	八幡	内山善太郎	内山善太郎						
60	124	6.5	豊田	米沢	諏訪	鈴木市左衛門	鈴木市左衛門						
61	4	15	豊田	渡島[渡ヶ島]	諏訪[諏訪明神]	鈴木孫左衛門	鈴木孫左衛門						
62	173	2	豊田[教習]	[助信]	天王	白尾藤次郎	白尾藤左衛門					白尾藤左衛門	
63	24	3	豊田	平洞	神明	林太兵衛							
64	174	2	豊田	川上	八幡	野末藤左衛門							
65		2.4	豊田	牛飼	明神		村松多兵衛						
1	86	4.5[引]	佐	伊井谷	二ノ宮	中村与惣右衛門	中井与惣右衛門			○	○		中井与惣右衛門
2	84	15[引]	佐	祝田[神宮寺]	神明[八幡]	山下惣兵衛	山下惣兵衛						
3	85	5[引]	佐	神宮寺[祝田]	八幡[羽島]	萩原七郎右衛門	萩原七郎右衛門						

年	西暦	月	日	神社名	国名	郡名	村名等	備考1	備考2
28	106	寛文	1672	5	16	三蔵社	伊豆	公方より再興につき相殿	吉川惟是口入
16	125	寛文6	1666	8	2	富士浅間社 (大宮司能登和)	駿河	位階希望	吉良若狭より香状・新隊御所小笠原丹波親領につき依島丸頭弁
16	128	寛文6	1666	8	10	富士浅間社 (社人能登和迹)	駿河	位階申請	
16	135	寛文6	1666	8	23	富士浅間社 (大宮司能登和)	駿河	位階勅許	従五位下
16	136	寛文6	1666	8	24	富士浅間社 (大宮司能登和)	駿河	位階勅許御礼	
16	138	寛文6	1666	8	28	富士浅間社 (大宮司能登和)	駿河	位階勅許	
16	144	寛文6	1666	9	5	富士浅間社 (大宮司能登和)	駿河	十八神道伝授	
16	168	寛文6	1666	10	23	富士浅間社 (社司大宮司)	駿河	位階御礼	吉良若狭守より香状
16	146	寛文6	1666	9	8	富士本宮浅間神社 (大宮)	駿河	十八神道伝授御礼	
16	146	寛文6	1666	9	8	富士本宮浅間神社 (下瀬直)	駿河	御一通	
16	44	寛文6	1666	3	4	米之宮 (社人錦織出羽)	駿河	富士 米森山 御一通 蔵	新院御所小笠原丹後申次、106石 矢島兵庫肝煎
拜*	慶長	1614	12	2	新宮左近・稲川刑部少輔、三保社家國彦頼	駿河			
拜*	慶長	1615	1	11	新宮左近	駿河			
2	49	慶安4	1651	3	30	惣社 (大蔵)	駿河	十八神道伝授香状・廻状	神部神社 (静岡市宮ヶ崎) 2,728石
2	102	慶安4	1651	9	21	(神部大蔵)	駿河	香状・廻状	
4	8	承応2	1655	1	7	惣社 (宮内親子)	駿河	御一通	
4	22	承応2	1655	2	5	(社家)	駿河	御一通	
4	27	承応2	1655	2	21	惣社 (宮内)	駿河		
4	124	承応2	1655	10	20	惣社 (宮内)	駿河		
4	147	承応2	1655	12	4	惣社 (父子)	駿河		
4	148	承応2	1655	12	5	惣社 (宮内)	駿府		
7	12	明暦3	1657	1	25	惣社 (宮内)	駿河		
7	1	明暦3	1657	4	27	惣社 (大蔵・宮内)	駿府		
7	1	明暦3	1657	6	29	惣社 (宮内)	駿府		
7	116	明暦3	1657	10	8	新宮 (新宮九郎三郎)	駿府		
8	18	明暦4	1657	1	22	惣社 (宮内)	駿府		
8	90	明暦4	1657	10	19	新宮 (左近)	駿府		
9	52	万治2	1659	6	16	惣社 (社司宮内)	駿府		
10	79	万治3	1659	8	29	惣社 (宮内)	駿府		
10	82	万治3	1659	7	2	惣社 (宮内)	駿府		
10	83	万治3	1659	7	5	惣社 (宮内)	駿府		
13	136	寛文3	1665	8	6	惣社 (社司志貴昌相)	駿河		
16	94	寛文6	1666	6	23	(社人)	駿河		
16	181	寛文6	1666	11	16	惣社 (宮内少)	駿河		
24	73	寛文	1670	3	24	惣社 (宮内・主殿)	駿河		
24	73	寛文	1670	3	24	(新宮太夫安清)	駿河		
24	74	寛文	1670	3	24	(新宮太夫安豊)	駿河		
24	112	寛文	1670	5	17	惣社 (新宮左近)	駿河		
24	115	寛文	1670	5	21	(社家新宮左近)	駿河		
27	26	寛文	1671	7	27	惣社 (社家主殿)	駿府		
27	31	寛文	1671	8	5	惣社 (主殿)	駿河		
16	178	寛文6	1666	11	11	三蔵神社 (神主太田園登)	駿河		
16	179	寛文6	1666	11	12	三蔵神社 (神主太田園登)	駿河		
16	180	寛文6	1666	11	14	三蔵神社 (神主太田園登)	駿河		
16	181	寛文6	1666	11	18	三蔵神社 (太田園登)	駿河		
16	184	寛文6	1666	11	21	三蔵神社 (太田園登)	駿河		
16	185	寛文6	1666	11	22	三蔵神社 (太田園登)	駿河		
16	1	寛文6	1666	11	22	三蔵神社 (太田園登)	駿河		
16	1	寛文6	1666	11	23	三蔵神社 (太田園登)	駿河		
拜*	慶長	1615	1	11	藤津大明神 (社家)	駿河			
拜*	慶長	1615	1	11	藤津大明神 (社家)	駿河			
本川根1	寛永	1640	1	23	牛頭天王 (祠宮神屋宮内少輔忠良)	駿河			
本川根1	元禄	1697	1	24	牛頭天王 (祠宮神谷大和守忠治)	駿河			
本川根1	天保	1840	8	10	神明牛頭天王 (神主神谷大和正藤原正明)	駿河			
本川根1	寛永	1640	1	23	牛頭天王 (祠宮神屋宮内少輔忠良)	駿河			
本川根1	元禄	1697	1	24	牛頭天王 (祠宮神谷大和守忠治)	駿河			
本川根1	天保	1840	8	10	神明牛頭天王 (神主神谷大和正藤原正明)	駿河			
本川根1	寛永	1640	1	23	牛頭天王 (祠宮神屋宮内少輔忠良)	駿河			
本川根1	元禄	1697	1	24	牛頭天王 (祠宮神谷大和守忠治)	駿河			
本川根1	天保	1840	8	10	神明牛頭天王 (神主神谷大和正藤原正明)	駿河			
本川根1	寛永	1640	1	23	牛頭天王 (祠宮神屋宮内少輔忠良)	駿河			
本川根1	元禄	1697	1	24	牛頭天王 (祠宮神谷大和守忠治)	駿河			
本川根1	天保	1840	8	10	神明牛頭天王 (神主神谷大和正藤原正明)	駿河			
本川根1	寛永	1640	1	23	牛頭天王 (祠宮神屋宮内少輔忠良)	駿河			
本川根1	元禄	1697	1	24	牛頭天王 (祠宮神谷大和守忠治)	駿河			
本川根1	天保	1840	8	10	神明牛頭天王 (神主神谷大和正藤原正明)	駿河			
本川根1	寛永	1640	1	23	牛頭天王 (祠宮神屋宮内少輔忠良)	駿河			
本川根1	元禄	1697	1	24	牛頭天王 (祠宮神谷大和守忠治)	駿河			
本川根1	天保	1840	8	10	神明牛頭天王 (神主神谷大和正藤原正明)	駿河			
本川根1	寛永	1640	1	23	牛頭天王 (祠宮神屋宮内少輔忠良)	駿河			
本川根1	元禄	1697	1	24	牛頭天王 (祠宮神谷大和守忠治)	駿河			
本川根1	天保	1840	8	10	神明牛頭天王 (神主神谷大和正藤原正明)	駿河			
本川根1	寛永	1640	1	23	牛頭天王 (祠宮神屋宮内少輔忠良)	駿河			
本川根1	元禄	1697	1	24	牛頭天王 (祠宮神谷大和守忠治)	駿河			
本川根1	天保	1840	8	10	神明牛頭天王 (神主神谷大和正藤原正明)	駿河			
本川根1	寛永	1640	1	23	牛頭天王 (祠宮神屋宮内少輔忠良)	駿河			
本川根1	元禄	1697	1	24	牛頭天王 (祠宮神谷大和守忠治)	駿河			
本川根1	天保	1840	8	10	神明牛頭天王 (神主神谷大和正藤原正明)	駿河			
本川根1	寛永	1640	1	23	牛頭天王 (祠宮神屋宮内少輔忠良)	駿河			
本川根1	元禄	1697	1	24	牛頭天王 (祠宮神谷大和守忠治)	駿河			
本川根1	天保	1840	8	10	神明牛頭天王 (神主神谷大和正藤原正明)	駿河			
本川根1	寛永	1640	1	23	牛頭天王 (祠宮神屋宮内少輔忠良)	駿河			
本川根1	元禄	1697	1	24	牛頭天王 (祠宮神谷大和守忠治)	駿河			
本川根1	天保	1840	8	10	神明牛頭天王 (神主神谷大和正藤原正明)	駿河			
本川根1	寛永	1640	1	23	牛頭天王 (祠宮神屋宮内少輔忠良)	駿河			
本川根1	元禄	1697	1	24	牛頭天王 (祠宮神谷大和守忠治)	駿河			
本川根1	天保	1840	8	10	神明牛頭天王 (神主神谷大和正藤原正明)	駿河			
本川根1	寛永	1640	1	23	牛頭天王 (祠宮神屋宮内少輔忠良)	駿河			
本川根1	元禄	1697	1	24	牛頭天王 (祠宮神谷大和守忠治)	駿河			
本川根1	天保	1840	8	10	神明牛頭天王 (神主神谷大和正藤原正明)	駿河			
本川根1	寛永	1640	1	23	牛頭天王 (祠宮神屋宮内少輔忠良)	駿河			
本川根1	元禄	1697	1	24	牛頭天王 (祠宮神谷大和守忠治)	駿河			
本川根1	天保	1840	8	10	神明牛頭天王 (神主神谷大和正藤原正明)	駿河			
本川根1	寛永	1640	1	23	牛頭天王 (祠宮神屋宮内少輔忠良)	駿河			
本川根1	元禄	1697	1	24	牛頭天王 (祠宮神谷大和守忠治)	駿河			
本川根1	天保	1840	8	10	神明牛頭天王 (神主神谷大和正藤原正明)	駿河			
本川根1	寛永	1640	1	23	牛頭天王 (祠宮神屋宮内少輔忠良)	駿河			
本川根1	元禄	1697	1	24	牛頭天王 (祠宮神谷大和守忠治)	駿河			
本川根1	天保	1840	8	10	神明牛頭天王 (神主神谷大和正藤原正明)	駿河			
本川根1	寛永	1640	1	23	牛頭天王 (祠宮神屋宮内少輔忠良)	駿河			
本川根1	元禄	1697	1	24	牛頭天王 (祠宮神谷大和守忠治)	駿河			
本川根1	天保	1840	8	10	神明牛頭天王 (神主神谷大和正藤原正明)	駿河			
本川根1	寛永	1640	1	23	牛頭天王 (祠宮神屋宮内少輔忠良)	駿河			
本川根1	元禄	1697	1	24	牛頭天王 (祠宮神谷大和守忠治)	駿河			
本川根1	天保	1840	8	10	神明牛頭天王 (神主神谷大和正藤原正明)	駿河			
本川根1	寛永	1640	1	23	牛頭天王 (祠宮神屋宮内少輔忠良)	駿河			
本川根1	元禄	1697	1	24	牛頭天王 (祠宮神谷大和守忠治)	駿河			
本川根1	天保	1840	8	10	神明牛頭天王 (神主神谷大和正藤原正明)	駿河			
本川根1	寛永	1640	1	23	牛頭天王 (祠宮神屋宮内少輔忠良)	駿河			
本川根1	元禄	1697	1	24	牛頭天王 (祠宮神谷大和守忠治)	駿河			
本川根1	天保	1840	8	10	神明牛頭天王 (神主神谷大和正藤原正明)	駿河			
本川根1	寛永	1640	1	23	牛頭天王 (祠宮神屋宮内少輔忠良)	駿河			
本川根1	元禄	1697	1	24	牛頭天王 (祠宮神谷大和守忠治)	駿河			
本川根1	天保	1840	8	10	神明牛頭天王 (神主神谷大和正藤原正明)	駿河			
本川根1	寛永	1640	1	23	牛頭天王 (祠宮神屋宮内少輔忠良)	駿河			
本川根1	元禄	1697	1	24	牛頭天王 (祠宮神谷大和守忠治)	駿河			
本川根1	天保	1840	8	10	神明牛頭天王 (神主神谷大和正藤原正明)	駿河			
本川根1	寛永	1640	1	23	牛頭天王 (祠宮神屋宮内少輔忠良)	駿河			
本川根1	元禄	1697	1	24	牛頭天王 (祠宮神谷大和守忠治)	駿河			
本川根1	天保	1840	8	10	神明牛頭天王 (神主神谷大和正藤原正明)	駿河			
本川根1	寛永	1640	1	23	牛頭天王 (祠宮神屋宮内少輔忠良)	駿河			
本川根1	元禄	1697	1	24	牛頭天王 (祠宮神谷大和守忠治)	駿河			
本川根1	天保	1840	8	10	神明牛頭天王 (神主神谷大和正藤原正明)	駿河			
本川根1	寛永	1640	1	23	牛頭天王 (祠宮神屋宮内少輔忠良)	駿河			
本川根1	元禄	1697	1	24	牛頭天王 (祠宮神谷大和守忠治)	駿河			
本川根1	天保	1840	8	10	神明牛頭天王 (神主神谷大和正藤原正明)	駿河			
本川根1	寛永	1640	1	23	牛頭天王 (祠宮神屋宮内少輔忠良)	駿河			
本川根1	元禄	1697	1	24	牛頭天王 (祠宮神谷大和守忠治)	駿河			
本川根1	天保	1840	8	10	神明牛頭天王 (神主神谷大和正藤原正明)	駿河			
本川根1	寛永	1640	1	23	牛頭天王 (祠宮神屋宮内少輔忠良)	駿河			
本川根1	元禄	1697	1	24	牛頭天王 (祠宮神谷大和守忠治)	駿河			
本川根1	天保	1840	8	10	神明牛頭天王 (神主神谷大和正藤原正明)	駿河			
本川根1	寛永	1640	1	23	牛頭天王 (祠宮神屋宮内少輔忠良)	駿河			
本川根1	元禄	1697	1	24	牛頭天王 (祠宮神谷大和守忠治)	駿河			
本川根1	天保	1840	8	10	神明牛頭天王 (神主神谷大和正藤原正明)	駿河			
本川根1	寛永	1640	1	23	牛頭天王 (祠宮神屋宮内少輔忠良)	駿河			
本川根1	元禄	1697	1	24	牛頭天王 (祠宮神谷大和守忠治)	駿河			
本川根1	天保	1840	8	10	神明牛頭天王 (神主神谷大和正藤原正明)	駿河			
本川根1	寛永	1640	1	23	牛頭天王 (祠宮神屋宮内少輔忠良)	駿河			
本川根1	元禄	1697	1	24	牛頭天王 (祠宮神谷大和守忠治)	駿河			
本川根1	天保	1840	8	10	神明牛頭天王 (神主神谷大和正藤原正明)	駿河			
本川根1	寛永	1640	1	23	牛頭天王 (祠宮神屋宮内少輔忠良)	駿河			
本川根1	元禄	1697	1	24	牛頭天王 (祠宮神谷大和守忠治)	駿河			
本川根1	天保	1840	8	10	神明牛頭天王 (神主神谷大和正藤原正明)	駿河			
本川根1	寛永	1640	1	23	牛頭天王 (祠宮神屋宮内少輔忠良)	駿河			
本川根1	元禄	1697	1	24	牛頭天王 (祠宮神谷大和守忠治)	駿河			
本川根1	天保	1840	8	10	神明牛頭天王 (神主神谷大和正藤原正明)	駿河			
本川根1	寛永	1640	1	23	牛頭天王 (祠宮神屋宮内少輔忠良)	駿河			
本川根1	元禄	1697	1	24	牛頭天王 (祠宮神谷大和守忠治)	駿河			
本川根1	天保	1840	8	10	神明牛頭天王 (神主神谷大和正藤原正明)	駿河			
本川根1	寛永	1640	1	23	牛頭天王 (祠宮神屋宮内少輔忠良)	駿河			
本川根1	元禄	1697	1	24	牛頭天王 (祠宮神谷大和守忠治)	駿河			
本川根1	天保	1840	8	10	神明牛頭天王 (神主神谷大和正藤原正明)	駿河			
本川根1	寛永	1640	1	23	牛頭天王 (

(表2) 白川家門人帳 20																	
伊豆	1	4	寛政元	1789	8	加茂	宇佐美庄 留田村	天神宮	神主	北山主水							
伊豆	2	2	文化10	1813	4	15	加茂	宇佐美庄 富田村	天神社	神主	北山伊勢〔 <small>b、藤原</small> 〕 近鏡	主水伴	継目	冠絹奇服許容		御礼金2両2歩	
伊豆	1	10	寛政9	1797	8	2	加茂	下田湊坂 下町	正一位稲荷		町中 鎮守城山稲 荷社へ		勸請		吹挙人/伊達信濃、取次/ 江州日野村井町徳永宗兵 衛 京都旅宿柳馬場三条 上ル木瓜屋治介		
伊豆	2	1	文化6	1809	5	12	加茂	白浜村			藤井揚藤〔昌幸藤 原〕	文化10.7 月伊予〔改 名〕駿	入門	浄衣風折	吹挙人申次/但馬屋太兵衛	御礼銀3枚	万延元年9月原豊後上京之節、藤井伊予死去、天 保7年、当時跡無之よし申居候事
伊豆	2	3	文化10	1813	7	8	加茂	白浜村	伊古奈比咩 命社	神主	改名原土佐 壬生 實永〔佐々木封〕		入門	浄衣風折	江戸役所より申来ル、吹 挙/藤井陽藏	御礼金500疋	
伊豆	2	5	天保7	1836	12	3	加茂	白浜村	式内伊古奈 比咩命神社	神主	原豊後	壬生幸永	継目	神拝式、冠絹奇服 浅黄差貫		御礼金1000疋、外に役方へ 金500疋	江戸執役所ニ而仮許状相請置候ニ付、猶又嘉永6 五年2月上京、本御許状引替相願、額宇御褒釜等 来ル辛酉年六十一年目御社向御修復正遷宮ニ付、 此度上京願出候也、但参宮之序罷出候由也
伊豆	2	6	万延元	1860	9	23	加茂	白浜村	伊古奈比咩 命神社	神主	原豊後	壬生幸永	遷宮式			御礼金500疋、外ニ100疋役 方	
伊豆	1	9	寛政9	1797	正	24	加茂	関野邑	正一位稲荷		鈴木稲荷大明神神 社 願主鈴木忠左		勸請		吹挙人/伊達信濃		
伊豆	2	8	元治2	1865	正	10	加茂	松崎村		大工	馬場右京	吉五郎事	初入門	上様式、風折浄衣	申次/江戸執役所	御礼金1000疋	
伊豆	1	3	天明7	1787	3	4	(君澤)		三嶋宮・神 明宮		佐野和泉	左近改			吹挙/小澤隠岐		
伊豆	1	6	寛政7	1795	5	7	君澤	椎名村	正一位稲荷		村役人中 願		勸請		吹挙/甲州中村孫太夫		
伊豆	1	8	寛政9	1797	正	24	君澤	軽井沢村	正一位稲荷		屋敷鎮守・井澤稲 荷社 願主渡辺五 左衛門		勸請		吹挙人/伊達信濃		
伊豆	1	1	天明7	1787	3	4	君澤	中嶋村	三嶋宮・神 明宮		伊達信濃	右京改		奉幣使在庁	吹挙/小澤隠岐		駿東郡松永村大久保兵部殿領分
伊豆	1	2	天明7	1787	(3)	(4)	君澤	西土肥村	土肥面神社	神主	植松山城	丹下改			吹挙/小澤隠岐		
伊豆	1	5	寛政6	1794	8		田方	多田村	正一位稲荷		与五郎伝左衛門		勸請	同人入門、許状遣	長谷川善濃介江戸より申		
伊豆	1	11	寛政9	1797	11	18	田方	田中村之内	正一位稲荷		守米稲荷社 稲荷 山隨応寺		勸請				
伊豆	2	7	文久元	1861	3	25	田方	塚本村			百姓服部男藏		初入門	神拝式		御礼金200疋、外ニ金2朱役 方へ称準人と	文久2年2月初旬、右勇藏修参宮いたし候趣ニ而御 殿へ罷出、依願風折古烏帽子一頭遣、文久2年3月 依願於自宅ニ神拝節、風折烏帽子浄衣免許、御礼 金200疋、外ニ金2朱役方へ
伊豆	1	7	寛政7	1795	(5)	(7)	田方	畑村	正一位稲荷		大塚又次郎 願		勸請				
伊豆	2	4	文政2	1814	3						高橋予一		入門	風折浄衣	吹挙/藤井伊予		
駿河	1	17	文化4	1807	11	25	駿東	大岡庄沼 津駅	山王宮	神主	川口能登〔元長〕河 内守	宮内事		冠絹奇服許状、別 ニ神役5人江浄衣麻 袴免状遣ス		御礼金1000疋	元長、文政2年7月上京、官位申願、7月26日叙従 五位下、同27日任河内守之事 /日枝神社、朱印 50石
駿河	1	5					駿東	大岡庄沼 津駅	山王宮	神主	川口能登〔藤原信 方〕						
駿河	2	9	文政2	1819	7	26	宣下	駿東	沼津宿	山王宮	神主	川口河内守〔元長〕	初官位				
駿河	2	10	弘化4	1847	2	25	駿東	沼津宿	山王宮	神主	川口能登		継目	神拝式、冠絹奇服	申次/江戸執役所	御礼金1000疋の由	
駿河	1	16	寛政10	1798	正	16	駿東	原宿西町	正一位明徳 稲荷明神		高嶋七郎兵衛宅鎮 守				取次/伊達信濃		
駿河	3	1	慶応4	1868	後4		富士	大宮	富士浅間社	大別当	寛広院服飾富士神 一郎〔平晴光〕		初入門	神拝式、奉幣式、 神饌式、遷宮式、 折祷式	申次/学館	御礼金300疋、150疋役掛、 奉幣以下4点御礼金200疋つ づ、100疋役掛	
駿河	3	2	慶応4	1868	8月	6	富士	大宮	富士浅間社	六所浅 間社務	六所中務		初入門	神拝式、奉幣式、 神饌式、遷宮式、 折祷式、清祓	申次/清水右膳	御礼入門式、金300疋、5点 200疋ツツ、役方300疋、此 分清水右膳へ遣ス、股次25	
駿河	2	11	嘉永4	1851	10	5	富士	大宮町		番匠	米澤真藏〔藤原光 晴〕	伊勢屋真 藏事	入門	神拝式	申次/同国府中草薙社森老 岐介	御礼金300疋、外ニ100疋役 方江	
駿河	2	1	文化14	1817	11		安倍		浅間	流鏑馬 奉行	村岡内匠〔藤原元 則〕		入門	神拝計	吹挙/六角内藏より申越	(由緒)	
駿河	2	2	文化14	1817	11		(安倍)		(浅間)		久野次郎左衛門		入門	神拝計			
駿河	2	3	文政元	1818	5	8	(安倍)		(浅間)	同社国 方役	田中帯刀〔藤原久 重〕		入門	神拝式計	村岡内匠より申し来る		
駿河	1	8	4	(安永)	1781		(志太)	伊太村			今川朴玄						
駿河	1	13	(安永)	1781			(志太)	嶋田在青 嶋村			岩本主計						
駿河	1	8	1	(安永)	1781		(志太)	嶋田村			服部新五郎						
駿河	1	8	2	(安永)	1781		(志太)	嶋田村			片川要司						
駿河	1	8	3	(安永)	1781		(志太)	嶋田村			服部求馬						
駿河	1	10	(安永)	1781			(志太)	若王子村	若市王子	神主	成瀬主計						/除地2石
駿河	1	6	安永9	1780	8		志太	青嶋村			青嶋縫殿						
駿河	2	6	文政元	1818	7		志太	朝比奈谷	六社大明神	禰宜	前嶋和泉〔藤原久〕		入門	風折浄衣、神拝式	吹挙/村岡内匠	一昨子年10月分	
駿河	1	15	寛政3	1791			志太	伊太村	八幡宮、牛 頭天王社		相澤主馬						太田備中守殿領分
駿河	1	14	安永10	1781	2		志太	内瀬戸村	神明宮	神主	岩本主計						御朱印12石
駿河	1	7	安永9	1780	(8)		志太	嶋田村			伊藤市郎左衛門						
駿河	2	7	文政2	1819	2		志太	高根		神主	遠藤左京〔藤原道〕		入門	神拝式計	吹挙/村岡内匠		
駿河	3	4	慶応4	1868	8	27	志太	田尻村	八幡宮	社人	神谷式部		初入門	神拝式	紹介/同村草薙神社森太郎 左衛門	御礼金100疋、外ニ金50疋 役方	
駿河	1	2					志太	八幡宮			太田良備前						
駿河	2	4	文政元	1818			有度	府中	草薙神社	神主	森寄宮〔源真直〕		入門	略式、神拝式計			
駿河	3	3	慶応4	1868	8	23	有渡	下清水村	五社稲荷大明 神	禰宜	長澤準人		初入門	神拝式	紹介/同村草薙神社森太郎 左衛門	御礼金100疋、外ニ金50疋 役方	
駿河	3	5	明治元	1868	10	22	庵原	西久保邸	秋葉大神社	神主	天野造酒允〔藤原 直清〕		初入門	神拝式、清祓式、 神饌式、奉幣式、 遷宮式	紹介/秋山虎之助内小林角 右衛門	入門御礼金300疋、五ヶ条 御礼金500疋、外ニ200疋役 掛、50疋取次	
駿河	2	5	文政元	1818			庵原		三保神社	神主	太田美濃守〔藤原 忠貞〕		入門	略式、神拝式計	竹尾但馬より申来	吉田家執奏社之由、本人当御流義信仰ニ付、同人 者御家江願出候旨、森寄宮ハ是迄吉田家へ拘り之	
駿河	2	8	文政5	1822	7		益津	兼牛村	千勝明神 社・西宮社		池田新藏		入門	雑掌当テ、神拝式 計	吹挙/村岡内匠		
駿河	1	9	(安永)	1781					白山権現	神主	石田大藏						
駿河	1	11	(安永)	1781				金谷聚			権山帯刀						
駿河	1	12	(安永)	1781				駿府清水 屋			野澤豊後						
駿河	3	6	明治2	1869	正	10		府中安倍 町			永田森太夫	般若院改 名	初入門	神拝式、清祓式、 神饌式、奉幣式、 遷宮式		五ヶ条御礼金1000疋、同 500疋役方	
駿河	1	3						下吉田	天神社	富士浅 間御飢 社務下 宮祝部 御師兼	小野得監						
駿河	1	4															

遠江	2	4	3	(文化15)	1818	(2)	鮪智	新居宿		高須加兵衛[尚]							右4人、竹尾但馬より申越、惣満門人之よし	
遠江	2	4	4	(文化15)	1818	(2)	鮪智	石原村		小栗直助[広伴]							右4人、竹尾但馬より申越、惣満門人之よし	
遠江	2	4	2	(文化15)	1818	(2)	鮪智	入出村		三浦伴蔵[文平]							右4人、竹尾但馬より申越、惣満門人之よし	
遠江	1	5		宝永7	1710	8	鮪智	浜松	八幡宮	金原監物								
遠江	2	5		文化9	1812	3	(鮪智)	浜松住人		樋口伊右衛門[徳忠]	後関大和と云	神拝略式一通		竹尾但馬より申越			後同国見付宿ノ辺掛塚、貴船社神主関大和ト云、是ハ吉田家配下之社ノ由、先祖ノ内、関内記ト申もの、当御家御門人ノ由、曾祖父茂太夫・祖父主水等ハ、伊勢大官司ノ祭式ヲ学候由、当代御家ノ流ヲ学、吉田家流義ハ不用、今ハト家ニ不拘由、	
遠江	2	6	1	文政元	1818	11	周知	森町		吉田又吉		神拝略式	中臣祓計、八通	竹尾但馬より申越				
遠江	2	6	2	(文政元)	1818		(周知)			岡野周八		神拝略式	中臣祓計、八通	竹尾但馬より申越				
遠江	2	6	3	(文政元)	1818		(周知)			神谷喜十		神拝略式	中臣祓計、八通	竹尾但馬より申越				
遠江	2	15		文政8	1825	8	周知	谷川村	熊野権現	神主	朝比奈弥大夫	初入門	風折淨衣	吹挙/久野次郎左衛門、申越/六角甲斐守 村方願書	御礼金1両、入魂			
遠江	2	20		天保7	1835	3	21	周知	天宮村		中村卯右衛門印[尊足]	神拝式	中臣祓計			細書是又同斯之事		
遠江	2	32		文久3	1863	8	23	城東	岩清村	天神・天王両社	神主	中嶋和泉[藤原陸直]	初入門	神拝式、風折淨衣、今般附属	申次/若杉大学属	御礼金500疋、金100疋役方、1朱取次中	願ニ付、地頭添倚持參無之、乍神祇陰陽道兼学、土御門門人ニ付、今般同家若杉大学属より依吹挙御許容之事	
遠江	3	3	2	(慶応4)	1868	(5)	21	城東	佐倉郷	油宮	大宮司	佐倉無二之助[源信康]△		(神拝式)	申次/播州多田式部			
遠江	2	34		慶応3	1867	9	17	城東	枕町[横須賀社]		木匠棟梁	岸房治[源時敏]	初入門	神拝式、一日法令、風折淨衣	申次/アミ笠や案内徳兵衛	御礼金500疋、100疋役方		
遠江	2	10		文政5	1822	3		豊田	大谷村	牛頭天王社		雪嶋舍人	七右衛門改名	初入門	風折淨衣	六角内蔵より申越		
遠江	2	25		嘉永4	1851	10	25	豊田	大谷村	牛頭天王	神主	雪嶋舍人	七左衛門事		神拝式、風折淨衣	地頭菅谷兵庫殿家来川合佐右衛門より添状到来、委細武家往来留ニ記置	御礼金200疋、外ニ50疋役方へ	
遠江	2	12		文化14	1817	11		豊田	上川会村	八王子社	神主	久野次郎左衛門	入門	神拝計	六角内蔵より申越		/久野は庄屋	
遠江	2	11		文政5	1822	4		豊田	上川会村	八幡神社	輪取	大場市郎左衛門	初入門	風折淨衣	六角内蔵より申越			
遠江	2	13		文政6	1823	8		豊田	友永村	御沙汰大明	神主	中田佐大夫	初入門	風折淨衣、神拝式	六角内蔵より申越		申冬申越許状ハ未8月	
遠江	2	33		元治元	1864	5	5	豊田	中之町村			高橋内匠[政高]	初入門	大祓授与	申次/善兵衛	御礼金100疋		
遠江	2	9		文政4	1821	11		豊田	向笠上村	稲荷社	神主	六角内蔵	中村秀平、改名六角甲斐中村秀平	稲荷社神主補任状			村役人より連署を以神主職補任状免許、尤是迄中絶ニ而神主村役廻り持ニ而、神事執行仕来候処、今度内蔵神主ニ相成候旨、村役人より申来/文政5年5月神道經祭許容	
遠江	2	7		文政2	1819	10		豊田	森本村			大播紋太郎[喜聚]	神拝略式	中臣祓計	右六角内蔵より申越			
遠江	2	8		文政4	1821	11		豊田	山東村		番匠	壺井審之丞[貞久]	呼名内匠	初入門	上棟式一式	同所名主八左衛門奥書願書を以願出	御礼金1000疋	
遠江	1	14		寛政3	1791	5	13	長上	浦之郷	神立明神	神主	浦筑後守[源信忠]	数馬事	勲許	従五位下		5月21日口宣案 青嶋録殿へ渡、位記宣旨 筑後	
遠江	2	6	5	(文政元)	1818			長上	羽島村			松嶋見司[茂岡]	神拝略式	中臣祓計、八通	竹尾但馬より申越			
遠江	2	6	7	(文政元)	1818			長上	石原村			井熊清大夫[常利]	神拝略式	中臣祓計、八通	竹尾但馬より申越			
遠江	2	6	6	(文政元)	1818			長上	佐藤村			磯部喜右衛門[喜蔭]	神拝略式	中臣祓計、八通	竹尾但馬より申越			
遠江	2	6	8	(文政元)	1818			長上	中瀬村		大工	弥惣次	神拝略式	中臣祓計、八通	竹尾但馬より申越			
遠江	2	27		安政3	1856	4	16	長上	小池村[浜松在]			広富倉蔵	呼名内蔵	入門	神拝式、於自宅神拝之節風折白差袴、呼名内蔵	申次/鳶屋太右衛門	御礼金1両、外ニ100疋役方江	
遠江	2	28		安政6	1859	2	23	長上	小池村[浜松在]			広富倉蔵	内衆と改名		依願許状相渡		御礼金300疋、100疋役方	
遠江	2	29		万延元	1860	9	23	長上	小池村[浜松在]			広富倉蔵	和泉と改名	依願	立烏帽子絹着服		御礼金100疋、当納	
遠江	3	1		慶応4	1868	後4	26	長上	小池村			広富内蔵[直順]		再入門	神拝式、自宅神拝風折淨衣 副状		御礼金200疋 去3月願濟ニ付、今日取計	
遠江	2	31		万延元	1860	9	23	長上	下大瀬村	天王社	神主	森相模	次郎兵衛事	初入門	神拝式、風折烏帽子淨衣	申次/広富内衆諸人奥印	御礼金500疋、100疋役方、内200疋当納	
遠江	3	2		(慶応)	1868	3		長上	下大瀬村			市良次		初入門	神拝式	申次/広富内蔵	御礼金200疋	
遠江	1	13	1	(寛政)	1800			長上	半田村			久米領右衛門	改河内				右三人奉納金11両、内3両1歩3匁大内蔵へ掖下、残金7両2歩12匁上納、此内1両は塩見坂役所入用、大膳へ渡、又・・・	
遠江	1	11		安永10	1781	(正24)		榛原	藤守村	大井八幡宮・山王権	神主	大田良大和					朱印25石	
遠江	3	3	1	(慶応4)	1868	5	21	榛原	穂積白羽郷	服織神社	神主	浦織之助[藤原徳直]△		御館入願 (神拝式)	申次/播州多田式部		御礼金200疋ツツ、50疋ツツ役掛、達書一通づつ渡、御朱印105石、△印三人、6月朔日入門、神拝式一通づつ、御礼金200疋づつ 御礼金300疋、200疋役方	
遠江	3	4		明治元	1868	11	10	榛原	蛭ヶ谷村	酉宮	社守	昌松佐太夫	初入門	神拝式			御礼金200疋、50疋ツツ役掛、達書一通づつ渡、御朱印105石、△印三人、6月朔日入門、神拝式一通づつ、御礼金200疋づつ 御礼金300疋、200疋役方	
遠江	3	5		(明治元)	1868	11	11	榛原	男神村	男		渥美源吾	初入門	神拝式	紹介/村松佐太夫		御礼金200疋、金200疋役方	
遠江	3	6		(明治元)	1868	11	11	榛原	菅谷村			川田舍人	初入門	神拝式	紹介/村松佐太夫		御礼金200疋、同100疋役方	
遠江	3	7		明治2	1869	9	11	榛原	仁田村	熊野十二所	社守	野村幸右衛門		御館入願	紹介/餅屋惣左衛門		御礼金500疋、300疋役方	
遠江	1	1		一				榛原	川尻村			村松式部						
遠江	2	4	1	文化15	1818	2		浜名	白須賀宿			小池古六[鈴雄]	神拝略式	中臣祓等		御礼	右4人、竹尾但馬より申越、惣満門人之よし	
遠江	1	3		延享4	1747	12		浜名	白須賀町			辻村主計						
遠江	1	2		延享4	1747	12		浜名	白須賀町	神明宮		内藤駿河[中用]					/4石	
遠江	1	4	1					浜名	長谷村	八王子		夏目源左衛門	改兵部					
遠江	1	4	2					(浜名)	(長谷村)		名主	増田次郎右衛門						
遠江	1	4	3					(浜名)	(長谷村)		名主	小池伝太夫						
遠江	2	1		文化7	1810	9	29	(浜名)	白須賀長ヶ谷村	八王子宮	神主	夏目兵部	太四郎事	継目初入門	風折淨衣	申次/白須賀神明神主内藤駿河	御礼1両2歩	同年10月冠着服被免、御礼金200疋
遠江	2	3		文化14	1817	11		(浜名)	白須賀宿		隠士	夏目基満		入門	神拝計	吹挙人/竹尾但馬・内藤阿		/国学者、造酒屋、子加納諸平は和歌山藩国学所願上京之处、御代官所より之添状持參無之ニ付、御伝書計相渡、御許状者追而右添状到来之上、可相渡旨申聞置、・・・
遠江	2	26		嘉永6	1853	4	9	浜名	長谷村(白須賀宿在)	八王子八幡宮	神主	夏目大和[源政清]	兵部伴源左衛門事	継目	神拝式、冠絹着服 浅黄差貫		御礼金1両2歩、役方へ金200疋、八神殿御札200枚頂戴、御礼金100疋、取次へ	9月4日鳴弦御伝授、御礼白銀10枚可差上之处、依因窮省略、父勤功之賞被免之訳ヲ以、金子300疋差上候事、且備国備依先例、八神殿御札400枚被遣之、右初穂金200疋差上ル
遠江	2	2		文化11	1814	8	15	(浜名)	白須賀	神明	神主	内藤阿波[映清]	駿河伴舍人事	継目	立烏帽子着服	天保2卯年病死之趣、倅作蔵8才幼少ニ付、辻村淡路より届来	御礼金300疋先例	
遠江	2	21		天保12	1841	8	17	(浜名)	白須賀宿	神明宮	神主	内藤兵五太夫[源茂年]		継目	立烏帽子着服許状、神拝式	同所夏目兵部・辻村淡路より添状来ル	御礼金300疋、御祝義金100疋、八神殿御札400枚、御初穂金100疋、外ニ金200疋 雑掌兩人へ、金100疋御用人兩人へ、金50疋侍中江御礼金300疋、外ニ金100、金100疋ツツ雑掌兩人へ、同50疋ツツ御用人兩人へ、同1朱取次中へ、八神殿御	
遠江	2	35		慶応4	1868	3	13	(浜名)	白須賀宿	神明宮	神主	内藤駿河[源道年]		継目	立烏帽子絹着服、神拝式			
遠江	1	6						浜名	三日宿	神明総社		口石見						
遠江	1	7						(浜名)				大膳				吹挙/内藤駿河		
遠江	1	8						(浜名)				左京						
遠江	1	9						(浜名)				山田(本)勘左衛門				吹挙/内藤駿河		
遠江	1	19		寛政9	1797	4	29	八名	巢山村	熊野三社権現社		小川路和泉	伊左衛門事			吹挙人/神因幡		
遠江	3	3	3	(慶応4)	1868	(5)	(21)	山名	大原郷	許弥神社		木原主水久家△			(神拝式)	申次/播州多田式部		
遠江	3	3	5	(慶応4)	1868	(5)	(21)	山名	馬場村	八幡宮	神主	伊藤主計				申次/播州多田式部		御朱印15石
遠江	2	18		天保6	1834	12			岡崎宿上着町		大工棟梁	中根太兵衛	初入門	風折淨衣浅黄差貫	申次/竹尾主計	御礼金1両		
遠江	2	16		天保5	1834	6	21		掛川宿下保町			大庭代助	入門	神拝計	申次/同国関大和	御礼金100疋		
遠江	1	17		辰(寛政8)	1796	11	19		平松村			百姓中 惣代茂平次・太右衛門	正一位稲荷勧進	具た狐祓御守百幅	吹挙人/神因幡より添簡			

田 田川家以人ナセヨ